

RYOKO FUKASAWA PIANO RECITAL

深沢亮子ピアノリサイタル

デビュー55周年記念

～思い出に残る曲を集めて～

2009年5月21日(木) 7時 紀尾井ホール

マネジメント: **ShinEq** 新演奏家協会 03-3561-5012



プログラム

深沢亮子ピアノリサイタル

デビュー 55周年記念 ～思い出に残る曲を集めて～

- モーツァルト ● デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲 ニ長調 K.573
W.A.Mozart 9 Variationen über ein Menuett von Duport D-dur K.573
- ベートーヴェン ● ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調 作品53「ワルトシュタイン」
L.v.Beethoven Sonate für Klavier Nr.21 C-dur Op.53 “Waldstein”
- Allegro con brio
Adagio molto
Allegretto moderato



- 助川 敏 弥 ● ピアノのためのソナチネ「青の詩」 作品45 (1975)
T.Sukegawa Sonatina for Piano “Poems in blue” Op.45 (1975)
- シ ョ パ ン ● 幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66
F.F.Chopin Fantasie-impromptu cis-moll Op.posth.66
- マズルカ 変ロ長調 作品7-1
Mazurka B-dur Op.7-1
- マズルカ イ短調 作品17-4
Mazurka a-moll Op.17-4
- 華麗なるワルツ 変イ長調 作品34-1
Valse brillante As-dur Op.34-1

ごあいさつ

本日は、御多用の御中私のデビュー 55周年記念コンサートに御来場下さり、誠に有り難うございます。厚く御礼を申し上げます。

こうして長い間好きなピアノを通じ、音楽活動を続けて来られましたことは家族は勿論、諸先生方、そして多くの方々のあたたかい御支援の御陰と心より感謝致しております。

思い出に残る曲は沢山ありますが、その中の何曲かについて少し説明をさせていただきます。モーツァルトの「デュポールのメヌエットによる変奏曲」は私が20才の頃、ウィーン楽友協会、ブラームス・ザールでのデビューリサイタルで弾いた曲です。以前、同ホールでルーマニアの女流ピアニスト、クララ・ハスキルの演奏会があり、「デュポール」を演奏しましたが、私は言葉では言い尽くせぬ程の深い感銘を受けました。自分も是非その曲を勉強し初リサイタルのプログラムに入れたいと思ったのでした。以来内外のコンサートで度々演奏し、何か自分の分身の様に感じる曲となりました。優雅、生き生きとしたユーモア、哀しみ、清らかさetc・・・に満ちており、この曲のテーマを弾く時には全身に清々しい空気を感じます。

(当時ハスキルは60才前後の背の曲がった方でステージのピアノの傍までいつも係の男性が手を貸してあげていました。でもひと度ピアノに向かいますと、タッチは誠にしっかりとしており、音が美しくその深く精神的な音楽が聴取の心をつかんでしまうのでした。私は一遍に彼女の演奏が好きになり、ウィーンでのコンサートは必ず聴きました。残念ながら65才の頃交通事故に遭いブリュッセルで亡くなられたようでしたが、私は若い時に何度か彼女の演奏を間近で聴けることが出来て幸せでした。)

恩師の故永井進先生はロマンティックな心情をお持ちで、まっすぐな方でいらっしゃいましたが、レッスンは大変厳しいものでした。小学校三年生の時、父に連れられて初めてお宅へ伺い、バッハの「平均律 第1巻 第5番 ニ長調」やショパンの「幻想即興曲」を聴いて頂きました。バッハはまあまあでしたが、ショパンは先生から「指はよく廻るがきちんと弾けていない。当分ペダルをとって片手ずつゆっくりさらうこと」との御注意を受けましたことは今でも良く覚えております。四年生から正式に生徒としてとって下さり、五年生位からショパンの難しい「三度のエチュード」や「黒鍵」等とベートーヴェンの「ワルトシュタイン」やメンデルスゾーンの「17の厳格なる変奏曲」、シューマンやブラームスの大曲を次々と与えて下さったのでした。「ワルトシュタイン」は17才、東京での渡欧リサイタルでも演奏をし、私はその輝かしさ、全てにおいて完璧な調和と圧倒的なスケールの大きさに演奏する喜びを強く感じたのでした。

助川敏弥さんの作品は30才前半より頼まれし、ずっと初演や再演を国の内外で行って参りました。最初の「ピアノのためのタペストリー」、「ピアノのための作品」は30～40分もかかる大作で難曲でもありましたが、以前はよく暗譜で演奏致しました。覚えにくい箇所は何度か五線譜に書きますと弾ける様になったものです。

その後作曲された「山水図」や、3年程前助川先生の喜寿のお祝いのコンサートで初演をさせて頂いた12音の音楽「Spica」も好きですが、シンプルな小曲集や小品に私は大変魅かれます。選びぬかれた音と独特の透明感があり、演奏者も一つ一つの音にかなりの神経を使います。最近の作品は更に透明度を増し、まるで天国から降って来る音楽の様に感じられます。1975年、76年、東京と名古屋で助川作品のみのリサイタルを致しましたが、東京でのリサイタルのために書かれた曲がソナチネ「青の詩」です。

ショパンの「マズルカ」は小学生の頃父に教わり(父は心理学者でしたが、子供の頃からかなり専門的にピアノとフルートを習い、永井先生にも師事しておりました)、Op.17-4はウィーンで勉強した大好きな曲の一つです。「華麗なるワルツ」は六年生で学生音楽コンクール全国一位を頂きました折、時の文部大臣、天野貞祐先生が文部省に招いて下さり、そこで本選に弾いたメンデルスゾーンの「厳格なる17の変奏曲」と、この華やかなワルツを聴いて頂きました。大変おほめにあずかり、私にとりまして大きな励みとなったことでした。

今日のコンサートを皆様がお楽しみ下さり、又、私の演奏が少しでも充実したものとなりますように願っております。芸術は終わりのない世界故更なる精進が続きますが、今後共何卒よろしく願い申し上げます。

2009年5月21日

深沢亮子

プログラム・ノート

ももせ たかし
百瀬 喬 (音楽評論家)

日本を代表するピアニストである深沢亮子さんの今回のリサイタルは、彼女のデビュー55周年を記念するコンサートだという。中学校3年生のときに第22回日本音楽コンクール(1954年、当時の名前は旧姓の大野亮子)で優勝して、同年5月23日の日比谷公会堂での上田仁指揮の青少年シンフォニー・コンサート協会管弦楽団とのウェーバーの協奏曲の共演、また同じ年の7月に行なわれたヤマハホールでのリサイタルから数えて55年を迎えたということで、今回のリサイタルでは、これまでの演奏活動における思いで深い作品ばかりを並べたという。

一言で片付ければ55年であるが、55年という永きにわたって演奏活動を続けてこれたということは並々のことではないことは、彼女と同年代で今も元気に活動しているピアニストがいかに少ないかということでも、ご理解いただけようか。その間にウィーンに留学してブラームス・ザールのウィーン・デビューに大成功を収め、その後もヨーロッパや日本で活躍するなど、絶えず音楽界に話題を提供し続け、2005年には英国ケンブリッジ国際伝記センター(IBC)により、「もっとも優秀なる100人の音楽家」の一人に選ばれたのだから、これは立派だ。彼女の演奏は、彼女の温かな人柄を象徴するかのようだ。聴く人の心を温かく包み込んでくれるような、そんな彼女の演奏が、私は大好きだ。

●モーツァルト：デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲 二長調 K.573

モーツァルト(Wolfgang Amadeus Mozart;1756-1791)の完全な形で残されているピアノのための変奏曲は14曲であるが、このデュポールの「メヌエットによる9つの変奏曲」は、通称「キラキラ星」変奏曲などとともに、その中でもっともポピュラーな作品として親しまれてきた。これは、1789年にモーツァルトがポツダムのフリードリッヒ・ヴィルヘルム2世を訪問した際に、ポツダム宮廷音楽家で、かつ王のチェロの教師でもあるジャン・ピエール・デュポールが作曲したチェロソナタのメヌエット楽章の主題をもとにして国王の面前で即興演奏したそれをもとに書き改めたもので、モーツァルト自身がまとめた作品目録には「6つの即興曲」とあり、1789年4月29日の日付けが書き込まれている。それがどういう経過で9つの変奏曲と発展したのか、そのあたりは明らかではないが、作曲者の死の翌年、1792年に刊行されたアルタリア社からの初版では、現行の9つの変奏曲となっている。デュポールのメヌエットを主題に選んだのは、当時生活に困窮していたモーツァルトが、彼に取り入ることでポツダム宮廷に職をえられたらとの望みを込めたからと説明する研究者もいる。

●ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調 作品53「ワルトシュタイン」

ベートーヴェン(Ludwig van Beethoven;1770-1827)はその生涯に37曲のピアノ・ソナ

タを残している。そのうち作品番号が付されているのは32曲で、リストの高弟で、ピアニストとして、また指揮者としても歴史に名を残したハンス・フォン・ビューローはこの32曲を、“ピアニストにとっての新約聖書”とたとえた。

ピアノ・ソナタ第21番は、「熱情」「テンペスト」などとともに、ベートーヴェンの中期様式を代表するソナタで、1803年8月から翌04年にかけての創作である。このソナタに手をつけるその直前に、パリのピアノ製作者エラールから従来のピアノにはない広音域のピアノがベートーヴェンに贈呈されて、そのより広がりのある表現特性がこの曲を生み出すきっかけとなったという。これまでのピアノ曲にはなかった〈三点イ音〉という高い音域が初めてここには用いられ、音楽の表現も凄く広がりがある。それまでに用いていたシュタインのピアノを贈ってくれて、またウィーンへの進出を支援してくれたワルトシュタイン伯爵への感謝を込めてこの曲を贈呈したことから「ワルトシュタイン」の副題が生まれた。第1楽章アレグロ・コン・ブリオ。第2楽章アダージョ・モルトのイントロドゥツィオーネ（導入）。第3楽章アレグレット・モデラートの、堂々としたロンド・フィナーレによって構築されている。

●ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66、2つのマズルカ（変口長調 作品7-1、イ短調 作品17-4）、華麗なるワルツ 変イ長調 作品34-1

多くの人々から“ピアノの詩人”と呼ばれ親しまれてきたショパン（Frédéric François Chopin;1810-49）は、39年という短いその生涯のほとんどをピアノ曲の創作と演奏に捧げつくしてきた。7歳のときのポロネーズ変口長調を皮切りに、39歳のときの未完の作品マズルカ へ短調 作品68-4に至るまで、協奏曲をはじめとするオーケストラ付きのピアノ曲や室内楽曲、ピアノ独奏曲のソナタ、バラード、スケルツォ、幻想曲、ポロネーズ、ワルツ、マズルカ、前奏曲、練習曲など、実に幅広いジャンルに魅力的な作品を数多く残した。

「幻想即興曲」嬰ハ短調は、彼の4曲知られる即興曲の中では、もっとも親しまれている作品で、アルバムなどでは第4番とされているが、実際は24歳のとき、1834年の創作で、4曲の中ではもっとも最初の作品である。当時人気のモシェレスの作品と良く似ていたためにおそらく発表を控えたのではないかと推測されており、それ故か出版が作曲者の没後となってしまった。

「マズルカ」は、ショパンが少年時代から親しんできたポーランドの農民たちによる舞曲に基づいて編み出したジャンルである。熱烈な愛国者であった彼は、祖国を思い起こしてあたかも日記のようにマズルカを書き続けたという。そのマズルカが当時独立を目指していたポーランドの人々に勇気を与えるということからショパンの賛美者であるシューマンは、“草陰の大砲”と例えた。変口長調 作品7-1は1832年に刊行された「5つのマズル

カ」作品7の第1曲。マズルカ特有の躍動するリズムが印象的だ。イ短調 作品17-4は前曲が出版された2年後の1834年に出版された「4つのマズルカ」作品17の4曲目に置かれている。固有の民族色を特徴とするこの曲は、マズルカの中では特に長い作品の一つ。

「華麗なるワルツ」作品34-1は、1838年に出版された3曲の第1曲目にあたる。一般的には、“華麗なるワルツ”と呼ばれているが、初版楽譜でのタイトルは“華麗なる大ワルツ”である。祖国を離れてパリに向かう途中で長く滞在したウィーンで、ショパンは街のあちこちから聴こえてくるウィンナー・ワルツに悩まされたと、親友への手紙に書いているが、そのワルツを彼は、彼のもっともポピュラーな作品へと変容させた。

●助川敏弥：ピアノのためのソナチネ「青の詩」作品45(1975)

ソナチネ「青の詩」は、1975年の作。この年、深沢亮子さんは全曲私の作品でリサイタルを開いてくださった。たしか、6月15日、イイノ・ホールだった。私も共同企画者であったが、一人の日本人作品だけの曲目のリサイタルはユニークなものだった。この曲はその演奏会のための新作である。したがって、深沢さんの、演奏様式、個人的傾向もすべて前提として想定した上で作られている。普通、三楽章の構成は、速い、遅い、速い、だが、この曲は、速い、速い、遅い、で出来ている。慣習と違うことをしてみたいという若気の意欲から出た構想だが、遅く静かに終るという造り方は演奏効果の上で地味で、この新構想の成否はいまも判断がつかない。副題の「青の詩」は、私がこの色が好きなことから付けたもの。

(助川敏弥)

9/25発売予定



Ryoko Fukasawa
and her Friends

Mozart, Schubert, Satoharata, Debussy, J.S. Bach, Beethoven

深沢亮子と 室内楽の仲間たち II

ヴァイオリン 恵藤久美子 ● チェロ 安田謙一郎

モーツァルト：デュボールの主題による9の変奏曲 二長調 K.573
 シューベルト：ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ第3番 ト長調 op.137 D.408
 助川敏弥：空想の岸辺(2008) -ヴァイオリンとピアノのための- / 夜の雨(2008) -ヴァイオリンとピアノのための-
 ドビュッシー：前奏曲集 第1巻より「水の精」 / 前奏曲集 第2巻より「バックの鏡り」【ミンストレル】
 J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV 1007
 ベートーヴェン：ピアノ・トリオ 第4番 変ロ長調 op.11『街の歌』
 深沢 亮子 (ピアノ) 恵藤 久美子 (ヴァイオリン) 安田 謙一郎 (チェロ)
 (2009年4月15,16日 千葉県・佐倉市民音楽ホール/録音セッション)

●製品番号未定 ¥2,940 (税込)

●全国の主要レコード店で発売!

ライブ・ノーツはナミ・レコードの旗のブランドです。
NAMI RECORDS CO., LTD.



絶賛発売中 各¥2,940 (税込)



深沢亮子
モーツァルト：
キラキラ星変奏曲
●WWCC-7503



深沢亮子と
室内楽の仲間たち I
恵藤久美子・an
安田謙一郎・vc
●WWCC-7557

●制作・発売元：ナミ・レコードCo.,Ltd. TEL 03-3440-5542 <http://www.nami-records.co.jp> (CD受注専用FAX) 03-3440-5401

(ジャケットデザインは変更される場合があります。ご了承ください。)